

東日本大震災 復興支援

みえ宣言

2011年3月11日14時46分。千年に一度といわれる未曾有の巨大地震発生。

地震、そして津波による破壊のすさまじさは想定を遙かに超え、そしてそれに伴う複合的な被害。想像を絶する惨状を伝え聞きながら、私たちは茫然とするばかりでした。すぐにでも被災された方々のもとへ応援に駆けつけたいと思っても、それすらままならない現実。私たちは無力感、そして焦燥感の中で、それぞれが「できること」を考えました。

そして今、1ヶ月を経て、自衛隊や警察、消防、海上保安庁、ライフライン企業、土木関係者等の絶え間ない努力や海外からの様々な支援により、被災地域の生活基盤は一步步復旧へと進んでいます。被災地域の皆さんの努力やいち早く被災地で活動された社会福祉協議会、NPO・NGO等支援組織の尽力により、復興に向けた取り組みが始まりつつあります。

震災。津波。被災後の生活。近い将来、東海・東南海・南海地震が連動して被害を受けると予測されている三重県にとって、とても他人事ではありません。

三重県民の皆さん、茫然自失の時は過ぎました。無事であった私たちにできることがあるはず。被害を受けた方々に寄り添い、復旧・復興に向け、ともに歩み出す時が来たのです。

これから始まる長い復興への道。途中で息切れしてしまわぬよう、悲しみを乗り越え前に進めるよう、一人ひとりができる、さまざまな取り組みを結集して、被災された方々や被災地域を支えていきましょう。

私たちは、被災された方々が笑顔を取り戻し地域が復興するまで、息の長い支援活動を三重から展開することを宣言します。

みんなのえがおがみたいから！ 今、三重から。

2011年4月11日(東日本大震災から1ヶ月の日に)

「ほっとけやん・東日本」

代表発起人

三重県知事	野呂 昭彦 (当時)
三重大学長	内田 淳正
三重県商工会議所連合会長	竹林 武一 (当時)
三重県商工会連合会長	藤田 正美
三重県共同募金会長	井村 正勝
みえ災害ボランティア支援センター長	山本 康史